

## 第6学年 総合的な学習指導案

日 時	平成21年11月5日(木) I・II校時
児 童	男子22名 女子34名 計56名
指導者	T1 菅崎 晋 T2 森重 睦美 T3 山口 学
場 所	6年教室(2教室) 児童会室 学び合い教室

### 1 単元名 もっと知りたい イーハトーブ花巻

### 2 単元について

郷土を愛する心は大切である。郷土は人の心の中にいつもあって、心の拠り所となり、支えとなるものだからである。郷土を愛する心をもつためには、郷土の良さやすばらしさを知ることが必要である。花巻市を様々な面から見つめ直すことで、花巻市に対する理解を深め、児童らが郷土に対して愛着をもつことができるようにしたいと願いこの単元を設定した。

本単元は、花巻城を中心として花巻の町作りが行われた頃の歴史、花巻温泉が発展してきた頃の花巻の歴史、花巻の先人の人物像や功績という3つのテーマで学習を行う。テーマを大きく3つにしたのは、以下の理由によるものである。

第6学年では社会科で日本の歴史について学習を行っているが、教科書で学習する歴史だけでなく、自分たちの郷土の歴史にも目を向けさせたいと考える。教科書で学習する内容と身近な地域で起こった事象との関連が見えたとき、児童は実感を伴って歴史を見直すであろう。中でも、花巻市の町作りの原点である花巻城や花巻の町作りを行った頃の様子については、現在も史跡や資料が数多く残っており、児童らは豊かな追究活動を行うことができると考え、これを1つ目のテーマとした。

また、花巻の町作りの中で温泉が果たした役割は大きい。本校は学区内に台温泉や花巻温泉などがあり、児童らにとって身近な施設が、郷土の歴史を学ぶよい材料となるであろう。児童らの祖父母等から取材する活動も期待することができると考え、2つ目のテーマとした。

さらに、花巻市には花巻のため、国のために貢献した先人が数多くいる。特に宮沢賢治は花巻が誇る偉大な人物である。子どもたちは国語学習の中で、その詩や童話の一部を学習しているものの、その人物像や業績について詳しく知っているとは言いがたい。宮沢賢治の作品やそこに流れる世界観等、先人の生き方を学ぶことは大切なことであると考え、3つ目のテーマとした。

総合的な学習の時間では、これまで、課題の見付け方や作り方、学習の見通しや計画の立て方、目的に応じた情報の集め方や調べ方、整理分析の仕方、まとめ方などの学び方を習得する活動を繰り返し行い、課題解決力をつけることをねらってきた。本単元では、児童らの身近な地域の題材を取り上げ、博物館や記念館等の機関との連携や地域の人材活用を図りながら、多様な情報の収集、現地の調査や探索など様々な追究活動を行う中で、児童の課題解決能力を一層伸ばしていきたいと考える。また、本単元では、課題解決力に加え表現力の育成も重視したい。誰に何のために伝えるのかを明確にし、相手に内容を理解し共感してもらうために、まとめ方や伝え方をどのようにしたらよいか考えさせる。そして、相手によって伝えるべき内容を選び、伝える方法を工夫し表現できる力を伸ばしていきたいと考える。

児童は前学年までに、花巻温泉での体験学習、学区探検を通した学区絵地図作り、花巻市内の社会科見学などの学習活動を行った経験がある。本年度は社会科の学習で、日本の歴史について学習しているが、花巻市の歴史についてはほとんど知る機会がないのが実際である。また、学区内にある花巻温泉については、大きなホテルが建つ前の様子を祖父母から聞いたことがある児童が数名いるものの、現在の花巻市に関する地理的な知識は豊かとは言えず、先人の宮沢賢治についても、童話作家であることを知っている程度であるのが現状である。

総合的な学習の時間では、昨年度は地球環境問題を学び、今自分たちにできることを考えて省エネ活動の実践をした。今年度は、修学旅行での研修内容を家族に知らせる発表会を行った。これらの学習を通して、児童らは課題解決の過程を学んできており、相手に伝えたいことを自分の思いを含めて伝えるための表現方法にも徐々に慣れつつある。しかしその反面、情報収集の手段が図書資料やインターネットの検索に限られる傾向があり、本単位ではこれまでの経験を生かしながらフィールドワークなど追究活動の力をいっそう育てていく必要があると考える。また、まとめて表現する段階では、資料や原稿の読み上げになってしまう傾向が見られることから、相手の状況や反応に関係なく一方的に発表するのではなく、話し手である自分の考えや思いを効果的に相手に伝える力を伸ばしていく必要があると考える。

指導にあたっては、市内にある博物館、記念館との連携を図りながら、どこでどのような情報が得られるのか探ったり、見学や取材の依頼をしたりすることを含め、児童自身が追究方法を決めたり計画を立てたりするのに必要な支援をしていきたい。また、資料やインターネット検索、電話取材などにとどまらず、現地調査、散策、施設見学などで校外に出て活動したり、実際に人と会って話を聞いたりするなど、できるだけ多くの人と関わることを通して、多様な情報収集活動を行うことを経験させたい。

他者に伝える活動では、誰に何を伝えるのかを明確にしてまとめるようにさせる。発表の際は、聞き手が伝えた内容をよく理解し、発表者である自分の思いに共感してくれることを目標とする。そのため、聞き手がどの程度の知識や関心をもっているのかを予測し、伝える内容や方法を選ぶことや、追究の過程で得た実感や感想も伝えることを助言する。さらに、より聞き手に伝わる発表ができるよう、中間発表会の場を設けて、友達からの質問やアドバイスを受けるなどして、内容をさらに修正したり発展させたりする活動を行うこととする。

### 3 単元のねらい

花巻市の歴史や先人について追究する活動を通して、課題解決力や表現力を伸ばすとともに、郷土を愛する心を育む。

#### 【課題発見力】

- ・郷土の歴史や先人について、自らの課題を見付けることができる。

#### 【企画力】

- ・課題解決のために、自らの追究活動を見通すことができる。

#### 【実行力】

- ・自ら立てた計画にそって、課題解決を図ることができる。

#### 【情報活用力】

- ・必要な情報を効果的に収集し、整理・分析してまとめることができる。

#### 【表現力】

- ・追究活動によって得られた内容を、効果的に人に伝えることができる。

#### 4 単元の評価規準

観 点	評 価 規 準
課題発見力	①花巻の歴史や先人について自らの課題を適切に見付けることができる。
企画力	①課題解決のための方法を考え、学習計画を立てることができる。 ②伝えたい内容に応じて、発表方法を考えることができる。
実行力	①学習計画にそって、課題解決を図ることができる。
情報活用力	①必要な情報を収集し、整理・分析してまとめることができる。 ②発表する内容に対する感想やアドバイスを基にして、修正・発展させることができる。
表現力	①郷土の歴史や先人についての課題を追究し、得られた内容を効果的に相手に伝えることができる。

#### 5 単元指導計画（計35時間）

段階	時	○ねらい ・学習活動 【評価規準】	工夫と手立て
見 付 け る	(5)	○花巻市の歴史や先人に興味をもち、課題を決めることができる。 ・花巻市の歴史や先人について、ゲストティーチャー（花巻市博物館）から話を聞いたり、興味のある内容について下調べをしたりして概要をつかむ。〔4〕 ・自分が興味をもち調べてみたいと思ったことをもとに、各自の課題を決定する。 〔1〕 【課－①】	【課題意識をもたせるための工夫】 ・ゲストティーチャーに、花巻城が作られた頃の歴史、湯本の温泉が発展した歴史、花巻の先人について話していただく。
立 て る	(2)	○課題解決の方法を考え、学習計画を立てることができる。 ・同様な内容について課題をもった児童らでグループを作り、追究する内容、方法、時間的な見通しについて話し合い、学習計画を立てる 〔2〕 【企－①】	【調べる方法を広げさせる工夫】 ・課題解決に一人で取り組むことも選択肢とする。 ・まとめ方を見通させ、写真や映像、音声など記録に残すものについても確認する。 ・課題の追究方法を助言する。

求める	(12)	○学習計画に沿って追究活動を行い、課題を解決することができる。 ・副読本や図書資料、インターネットでの情報収集や、見学や取材、ファックスや電話による問い合わせなどにより課題を追究する。〔1 2〕 【実－①】	【追究意欲を持続させる方法】 ・実地調査や見学、取材など校外での各グループの活動に対応する。 ・追究活動を進める中で、情報を整理し、必要に応じて課題や方法の見直しが適切にできるように助言する。
まとめる	(13)	○相手に伝えたいことを明らかにし、発表の方法を工夫してまとめることができる。 ・追究した内容をまとめる。〔7〕 【企－②】【情－①】 ・中間発表をする。〔2〕本時 【情－②】【表－①】 ・アドバイスを受けて補足修正を行う。 〔4〕【情－②】	【自分なりの表現をさせる工夫】 ・課題追究の段階で得た実感や感動を伝えるように助言する。 ・計画段階で考えたまとめ方でよいか再度検討し、発表する内容に応じた方法であるかを考えさせる。 ・中間発表会を行い、評価の観点を明らかにしながら発表したり聞いたりさせる。
広げる	(3)	○まとめたことを相手に伝えることができる。 ・発表会をする。〔2〕 【表－①】 ・学習のふりかえりをする。〔1〕	【自分なりの表現をさせる工夫】 ・相手の反応を意識しながら発表するように助言する。

## 6 本時の学習

### (1) 仮説との関わり

仮説2：自分なりの表現をさせるための工夫にかかわって

<発表者の思いや工夫を明確にする>

発表する際は、相手意識を明確にしなが、特に伝えたいことは何か、そのために考えた方法や工夫、アドバイスを受けたい観点を話させる。特に伝えたいことには、知り得た事だけでなく、追究の過程で得た実感や感動も入れるようにさせる。

### (2) 学習のねらい

中間発表をして交流し合うことで、自分たちの発表を見直し、修正・発展するための見通しをもつことができる。

#### 【情報活用力】

- ・質問やアドバイスを受けて改善点を見付けることができる。

#### 【表現力】

- ・追究活動によって得られた内容を効果的に相手に伝えることができる。

(3) 本時の展開

	学習活動の流れ ・ 予想される児童の反応	・留意点 ◇支援 ☆評価
導入 5分	<p>1 学習のめあてをつかむ。 T 2 <b>全体</b> (学び合いの部屋)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>中間発表を通して学び合い、互いの発表の良さや改善点を確認しよう。</p> </div> <p>2 学習の進め方を知る。</p>	<p>◇発表を聞く観点を確認する。 ①内容、資料は適切か。 ②伝えたいことが明確か。</p>
活動 75分	<p>3 中間発表会をする。 <b>グループごと</b></p> <p>(1) 班毎に発表する。</p> <p>○花巻城、城下町、花巻祭りの歴史 先人(新渡戸稲造) T 1 (6-1教室) ○温泉開発の歴史 T 3 (6-2教室) ○先人(宮沢賢治) T 2 (児童会室)</p> <p>(2) 発表後、聞く側は質問をしたり、感想やアドバイスを話したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表の方法に工夫がある。</li> <li>・わからない言葉がある。</li> <li>・～を詳しく話した方がいい。</li> <li>・資料の提示の仕方がよい。</li> <li>・感じたことや考えがよく分かる。</li> </ul> <p>(3) 班で改善点を話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数の発表会とし、交流しやすく質問や意見を出し合える環境をつくり、話し合いの時間を確保する。</li> <li>・発表前に、特に伝えたいことや工夫したこと、アドバイスを受けた点などを話させる。</li> </ul> <p>☆自分の意図した発表ができたか。</p> <p>◇進行役は教師が行い、それぞれの発表の良さを見つけたり、内容を深めたりするような質問や的確なアドバイスが出されたときは、大きく取り上げて価値付ける。</p> <p>◇グループによって異なる学習内容を相互に関連付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いの記録をとらせる。</li> </ul> <p>☆聞く観点に沿った評価ができたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アドバイスを受けたことの中から、実際に取り入れることを選択させる。</li> </ul> <p>☆自分の発表の良さや改善点に気付くことができたか、</p>
まとめ 10分	<p>4 自分たちの発表の良さや改善点を報告し合う。 T 2 <b>全体</b> (学び合いの部屋)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・説明を補う必要がある内容</li> <li>・他の表現方法を使うところ</li> <li>・資料の提示の仕方を工夫するもの</li> </ul> <p>5 次時の活動について知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの班の中間発表の良さに加えて、改善する点を見付けたことも学習の成果として確認する。</li> </ul>